

第5回 基本問題・影響調査専門調査会 ポジティブ・アクション ワーキング・グループ議事要旨

(開催日時等)

- 1 日時 平成23年6月3日(金) 17:00~19:00
- 2 場所 中央合同庁舎第4号館 共用108会議室
- 3 出席者
 - 座長 今野浩一郎 学習院大学教授
 - 座長代理 鹿嶋敬 実践女子大学教授
 - 委員 渥美由喜 株式会社東レ経営研究所がバリエーション&ワークライフバランス研究部長
 - 同 碓井光明 明治大学大学院教授
 - 同 岡本直美 日本労働組合総連合会会長代行
 - 同 川本裕康 社団法人日本経済団体連合会常務理事
 - 同 黒瀬友佳子 帝人クリエイティブスタッフ株式会社人財部がバリエーション推進室長
 - 同 小林良彰 慶應義塾大学教授
 - 同 東村博子 名古屋大学大学院准教授
 - 同 辻村みよ子 東北大学大学院教授

(議事次第)

- 1 開会
- 2 論点整理に向けた自由討議
- 3 閉会

(配布資料)

- 資料1: 論点整理に向けた検討課題について(案)
- 資料2: ポジティブ・アクションの実現方法
- 資料3: 各分野におけるポジティブ・アクションの政策体系
- 資料4: 各分野におけるポジティブ・アクションの類型及び取組の例
- 資料5: これまでのワーキング・グループにおける意見の概要

(議事概要)

- ・能力主義とポジティブ・アクションの関係について、一般的には意欲・能力・実績等に基づき評価されているが、能力評価は必ずしも中立客観的ではあり得ないため、必要であればポジティブ・アクションにより取組が進められているのではないかと、また、まずは固定的性別役割分担意識の解消が必要ではないかと、などといった意見があった。
- ・雇用分野について、企業は市場原理の下で競争しているので、ポジティブ・アクションの取組は企業の自主性に任せた方がいいのではないかと、また一方で自主的な取組に任せると時間がかかり過ぎるので改善されない、などといった意見があった。
- ・政治分野について、ポジティブ・アクションの選択肢を整理するという方がいいのではないかと、また、選挙制度改革が必要ではないかと、現行の選挙制度の中で可能な手法があるのではないかと、などといった意見があった。
- ・また、男女の特性論でポジティブ・アクションを議論すべきではない、といった意見があった。
- ・次回は、6月17日(金)に中間報告の取りまとめに向けた検討を行う予定である。